

第3回臨床研究部研修会

～第66回国立病院総合医学会予行演習会～



◆11月5日(月)に第66回国立病院総合学会に向けた予行演習会として第3回臨床研究部研修会が開催されました。

国病学会の予行演習ということもあってか、多くの職員にご参集いただき、55名という当初の予想を上回る結果となりました。皆様ありがとうございました。

◆もくじ

1. 救命救急科看護師 川村成輝
「FANCAPモデルはICUにおける看護問題の充実と看護師のケア遂行満足度をあげるか」
2. 薬剤科(GRC) 音窪麻衣
「治験管理室の現状に対する問題点とその取り組みについて」
3. 地域連携室看護師 福田倫子
「患者・家族へのアンケート調査を実施して-退院調整の課題を考える-」
4. リハビリテーション科理学療法士 鎌田将星
「急性期リハビリテーション医療 -現状と当科の取り組み-」



← ◆橋爪臨床研究部長のあいさつで始まりました。



↑ 発表風景 ↑

ポスター発表の予行演習も行われました。

参加者からさまざまな質問や
アドバイスが飛び交いました。

5. 外来看護師 谷中朋子
「インターフェロン治療を受ける患者の精神的・身体的症状の実態調査と看護師の役割」
6. 診療看護師 横山淳美
「当院におけるJNPの活動の現状と今後の課題」
7. 副看護師長 井上明美
「エンゼルケアの改善に向けた取り組み
-緩和ケアリンクナース会の活動を通して-」
8. 医療安全管理係長 松原努
「急性期病院における病床管理」

研修会の振り返り

第3回を迎えたこの会も無事終了することができ、ご参加・ご協力いただいた皆様方に感謝申し上げます。今回は学会の予行演習形式で、これまでと趣向を変え、プレゼンテーションの組み立てという課題が見出された印象があります。非難や反対意見という捉え方ではなく、どのように自分達の主張を伝えることができるか、というコミュニケーションの最たるものが、学会発表であると思います。はじめての方には、やや厳しいご意見もあったかもしれませんが、世間からの当院への批評はもっともっと厳しいものであるはずで、各人の職務が地域のみならず広い世界から常に評価されているとすれば、今回の研修会での課題が、今後の発表にも反映され、また職務に還元されて、各人がよりよい評価を得ることができると信じます。今回の研修会が、前向きで日常に活かせるバイタリティのきっかけとして捉えていただければ幸いです。

臨床研究部長 橋爪 俊和



↑ ◆大盛り上がりをもせた予演会。
予定にはなかったですが、最後は院長からの激励の言葉を頂き閉会しました。